

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項 目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	

（注）7年1月判断は、前回6年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、電気機械などが増加しているものの、輸送機械などが減少しており、横ばいの状況にある。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回（6年10月判断）	今回（7年1月判断）	前回比較
-----	-------------	------------	------

個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	横ばいの状況にある	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	

設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	6年度は減益見込み	6年度は減益見込み	
企業の景況感	「上昇」超に転じている	「上昇」超幅が拡大している	
住宅建設	前年を下回る	前年を下回る	
輸出	前年を上回る	前年を下回る	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、アメリカの政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、百貨店販売は、気温高の影響で衣料品などが低調であり、前年を下回っている。ホームセンター販売は、気温高の影響で季節商品が不調であり、前年を下回っている。ドラッグストア販売は、気温高の影響で夏物商品の好調が続き、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、気温高の影響で飲料などが好調であり、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、自動車認証不正取得問題の影響から徐々に回復しつつあるものの、一部車種の生産停止の影響によって、前年を下回っている。このように、個人消費は、全体では、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 気温の高い日が続いたため、アウターやセーターなどの秋冬物が低調だった。また、婦人靴や寝具の秋冬物の動きも鈍かった。（百貨店）
- 気温高の影響で、暖房器具や毛布などの秋冬商品が不調だった。一方、強盗被害等の報道を受け、防犯意識の高まりから、センサーライトやブザーなどの防犯用品には動きがみられた。（ホームセンター）
- 風邪や感染症が流行しなかったことで医薬品は低調だったものの、気温高によって日焼け止めや制汗剤などの夏物商品が好調だった。（ドラッグストア）
- 気温の高い日が続いたため、飲料やアイスクリーム、麺類の売行きが好調だった。（コンビニエンスストア）
- 一部メーカーにおける複数車種の生産停止の影響によって、販売台数が伸び悩んでいる。（自動車販売）

■ 生産活動 「横ばいの状況にある」

電気機械は、自動車向けの需要が回復していることなどから増加している、汎用・業務用・生産用機械は、海外向けの需要が堅調なことなどから増加している。一方、輸送機械は、モデル切替の影響などから減少している。化学は、建材向け樹脂原料の需要が低迷していることなどから減少している。鉄鋼は、建設需要が低迷していることなどから建材向けの生産量が減少している。このように、生産活動は、全体では横ばいの状況にある。

- 電動化・電装化の進展に伴い自動車向けの需要に回復の動きがみられ、生産水準が徐々に拡大している。（電気機械）
- 主力製品について、海外からの受注が堅調に推移している。（生産用機械）
- モデル切替の影響や主力車種の需要の落ち着きなどから、生産量が減少している。（輸送機械）
- 建設需要の低迷によって建材向け樹脂原料の需要も低迷していることなどにより、生産水準は低調となっている。（化学）
- 資材価格の高騰、人手不足及び金利上昇などを要因として、大型案件の先送りや新規住宅着工件数の伸び悩みがみられており、建材向けの需要は引き続き低迷している。（鉄鋼）

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、緩やかに上昇している。民間職業紹介における求人は、アルバイト・パートで弱さがみられるものの、正社員で堅調に推移している。また、企業の人手不足感は、法人企業景気予測調査（6年10-12月期）の従業員数判断 BSI でみると、「不足気味」超幅が拡大している。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 人件費の増加や物価の高騰など各種コストが上昇している状況にあることから、費用を抑制するため、採用を控える動きがみられる。（人材・職業紹介）
- これまで人が行っていた持ち運び作業に関し、ロボットや自動搬送への切替えを進めている。このほか、組立作業の自動化も可能なものから取り組んでいる。（情報通信機械）
- 募集をかけても採用に至らない状況が続いており、全般的に不足している。このため、スポットバイトを活用してかなり補っている。（小売）

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

- 製造業では、「情報通信機械」などで減少するものの、「化学」、「自動車」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、「農林水産業」などで減少するものの、「電気・ガス・水道」、「小売」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- カーボンニュートラル関連の設備投資を実施。(化学)
- 発電関連の設備投資を実施。(電気・ガス・水道)

■ 企業収益 「6年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

- 製造業では、「化学」、「業務用機械」などで増益となるものの、「生産用機械」、「その他の輸送用機械」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、「建設」、「小売」などで増益となるものの、「運輸・郵便」、「学術研究、専門・技術サービス」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超幅が拡大している」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年10-12月期

- 企業の景況判断BSIは、「上昇」超幅が拡大している。なお、先行きは「下降」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回る」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家が増加しているものの、貸家、分譲住宅などが減少していることから、前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を下回る」

- 輸出(円ベース)は、一般機械などが増加しているものの、自動車、鉄鋼などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、アジアなどで増加しているものの、北米、西欧などで減少している。
- なお、輸入(円ベース)は、原油及び粗油、銅鉱などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、中東、大洋州で減少している。

3. 各県の総括判断

	前回 (6年10月判断)	今回 (7年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
鳥取県	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、弱含んでいる。
島根県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一部に弱い動きがみられ、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。
岡山県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
山口県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。